

令和6年度 過重労働解消キャンペーン

局長が「ベストプラクティス企業」と意見交換を行いました

建設業については令和6年4月1日からの時間外労働の上限規制の適用、人手不足や労働者の高齢化、資材価格の高騰などの厳しい経営環境にある中、生産性向上等により働き方改革を推進している株式会社橋本店を、建設工事発注機関である東北地方整備局及び同局仙台河川国道事務所とともに訪問し、意見交換を行いました。

■ 令和6年度のベストプラクティス企業

株式会社橋本店

本社所在地：仙台市青葉区

代表者職氏名：代表取締役社長 武田文孝

創業：1878年（明治11年）

労働者数：190名（2025年1月現在）

事業内容：総合建設業

施工実績：仙台地区橋梁下部工工事

阿武隈川左岸砂防堰堤工事

仙台うみの杜水族館新築工事

東北学院大学五橋キャンパス

新築工事 など



■ ベストプラクティス企業の取組内容

株式会社橋本店で行われている働き方改革の取組のうち5点を紹介します。

（1）朝型勤務の導入

「朝の30分は夜の3時間に匹敵する」というように、朝のすっきりした状態で勤務することで、仕事の生産性向上を図ります。

冬場も朝型勤務を継続



**日没が早い冬場の作業時間確保
につながり、下請会社にも好評！**

【社員の声】

「子どもと過ごせる時間が増えた」
「ジムに通う時間が確保できた」 etc…



ワークライフバランスが整いました！

(2) WMS 8 (ウムス・エイト)

これは株式会社橋本店が考えた造語で、仕事(Work)、余暇(My time)、睡眠(Sleep)の頭文字と、888ルールを組み合わせたものです。

仕事・余暇・睡眠をバランスよく保つことで、心身ともに健康な状態で仕事をすることができます。



? 888 ルールとは?

1日を3分割し、仕事・余暇・睡眠にそれぞれ8時間充当する独自のルールのことです。

**WMS 8 を定着させることで、
社員の意識改革を促しています！**

(3) 8時間睡眠の推奨

心身ともに健康な状態で仕事に取り組むためには十分な睡眠が必要です。

8時間睡眠を推奨することで、業務効率アップを図っています。



村山常務（左上）による取組内容の説明の様様

(4) 型枠一本締め工法の導入

型枠一本締め工法は、鹿島建設他3社が共同開発した、約70年ぶりとなる型枠の新工法です。この工法を取り入れたことで、型枠パイプの軽量化と本数の削減につながり、型枠大工の施工歩掛が約20%向上しました。またリサイクル率の高いアルミ材の使用で環境負荷の低減が図られるという大きなメリットがありましたが、アルミ材は高額資材であるため、自己資金では調達困難な型枠業者の経済的負担を軽減させるため、橋本不動産で部材を購入、協力業者にリースするという方法をと

り、元請業者として後方支援をしていきます。

型枠一本締め工法を進めることは、働き方改革への後方支援及び担い手不足の諸問題の解決につながると考えており、今後一層の普及に努めます。

協力会社にも新工法を普及



協力会社と一体となり生産性向上へ！

(5) BIM/CIM を内製化 (バックオフィス化)

業者を介在せず、株式会社橋本店の社員のみで対応しているため、現場と事務所の連携が強固であることが特徴です。

■ 意見交換会について

(1) 日 時：令和6年12月17日(火) 14:00～15:00

(2) 訪問先：株式会社橋本店 本社

(3) 出席者：株式会社橋本店 武田社長
株式会社橋本店 村山常務
東北地方整備局 寺山課長補佐
仙台河川国道事務所 鳴海副所長
宮城労働局 小宅局長
宮城労働局 川越部長



意見交換の様様



武田社長(左)と村山常務(右)



寺山課長補佐(左)と鳴海副所長(右)

(4) 意見交換の概要

▶ 働き方改革の出発点を教えてください。

会長の号令により、働き方改革の一丁目一番地として**残業削減**に取り掛かりました。

最初に、各自の労働時間を確認しました。1日の労働時間のうち大きなウエイトを占める項目にポイントを絞った対策を講じました。BIM/CIMの活用もその一環です。

BIM/CIMの活用については発注機関である整備局さんに評価していただきましたので、さらに活用が進みました。



小宅局長（左）と川越部長（右）

**企業トップのリーダーシップのもと
働き方改革を進めていったのですね！**

▶ 現場では様々な苦労があると思いますがいかがですか。

資材発注のため20日前に連絡を入れなければならない業者もあります。

そのため、工程管理は以前よりもシビアになったと感じております。

シビアな工程管理は苦労することも多いですが、生産性向上につながるというメリットにもつながっています。

▶ 新しいことを始めるということに抵抗を感じる人も少なくないと思います。

反対意見などはありましたか。

反対意見は多少ありましたが、「まずはやってみよう」の精神で進めました。取り組みの成果は、毎月開催している全体会議にて展開し、社員に「こんなこともできるのか」と気付きを促すとともに成果を共有しました。また、取組内容を「真似」させることで、BIM/CIMの導入もスムーズに進めることができました。

**社員へのメリットが推進力と
なったのですね！**

